

基本政策分科会

今後の原子力政策のあり方について

2022年11月15日

大学院大学至善館
株式会社未来創造部
有限会社イーズ

枝廣淳子

大前提

福島原発事故がなかったかのように
エネルギー政策を考えてはならない

核廃棄物処理のめどが
ない原発の新增設・運
転延長はない

第7回 エネルギー情勢懇談会

大きな方向性および 報告書とりまとめに向けて

2018年2月27日

東京都市大学
幸せ経済社会研究所

枝廣淳子

将来の原発の位置づけを
あと送りせず、考え始める

考え始めるべき問い①

- 2050年以後、原発以外で量的にもコスト的にも電力がまかなえるようになっても、原発は必要なのか？
- だとしたら、それは何のため？
- そのためには、どのような原発がどのくらい必要なのか？
- 何を判断基準に、どのようなプロセスで議論・判断していくのか？

時間のかかる社会的合意形成に着手する（始めないと始まらない!）

核廃棄物の取り扱い、特に最終処分

その場合

- 核廃棄物が増え続けていくのか？
- 現在存在している核廃棄物の対処を考えるのか？

によって形成すべき合意も異なる

核廃棄物処理
のめどはまったく
ついていない

再エネ拡大の手
も十分打てず

「電力不足を
埋めるために
原発が必要」

やることを
やってからでしょ

非常対応としても、
そのあとやることを
やると、どうして信
じられる？

「他国だって原発回帰だ」というけれど

新設へ核のゴミ処分重要

仏原子力・代替エネルギー庁長官付上級技術顧問 ヴァンサン・ゴルグ氏（2022年10月10日付 日経新聞）

- フランスのマクロン大統領は、原発をまず6基新設し、2050年までにさらに8基を追加する検討を進めると表明
- 使用済み燃料から生じる高レベル放射性廃棄物などの地層処分の場所が決まったことも、政府が原発建設を推進しやすくなった一因
- 北東部ムーズ、オートマルヌ両県にまたがる場所が選ばれた
- 地層処分に関する全国規模の討論集会は、4回実施
- 建設許可は23年に下りる予定で、35年の稼働開始をめざす
- 候補地が未定だったら、原発の増設方針に対し、核のゴミを将来世代に押しつけるなど批判が高まっただろう

国民不在の
原発・エネルギー政策
づくり

東日本大震災後

以前からの断絶が継続・悪化

「原発推進派 vs 原発反対派」

- 相互の対話ナシ
- 自分の意見 = 自分のアイデンティティ
(絶対に変えない、変えることは許されない)
- 原発推進派が再エネの可能性に言及することすら御法度
(「原発反対派か」と非難される)
- 再エネは極小の日本：原発反対→火力容認→温暖化容認？
悪魔の選択肢：「原発か、温暖化か」

まずは、原発賛成・反対を
超えて、対話のテーブルにつ
くこと。それを見せること。

2011年7月8日

「みんなのエネルギー・環境会議」
(MEEC) を立ち上げ

■ 設立発起人 (50音順)

飯田哲也 (特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所)

枝廣淳子 (幸せ経済社会研究所)

岡田武史 (日本サッカー協会)

橘川武郎 (一橋大学大学院)

小林武史 (一般社団法人APバンク)

澤昭裕(国際環境経済研究所)

澤田哲生 (東京工業大学原子炉工学研究所)

茅野實(長野県環境保全協会)

吉岡達也 (ピースボート)

吉岡 齊 (九州大学)

みんなのエネルギー・環境会議



みんなのエネルギー・環境会議（MEEC）

- これまでの国主導の「エネルギー政策」から、さまざまな立場や考えの人がオープンに語り、議論する場をつくり、一人ひとりが自分のこととしてエネルギーのことを考え、国民の思いや気持ちを反映したエネルギー政策を作ってもらおう、という思いで設立発起人一同で立ち上げた会議。
- 原発推進／反原発・脱原発、自然エネルギーの今後等について、「こうあるべき」という特定のスタンスを打ち出すためのものなく、それぞれの観点についての賛成・反対を含め、さまざまな立場や考え方の人々がオープンに日本の産業や暮らしを支えるエネルギーの今後について、考え、語り、議論し、対話する場。
- 会議はすべてネット中継を行う。

みんなのエネルギー・環境会議 第1回

【日時】 2011年7月31日

【場所】 長野県茅野市（諏訪理科大学）

「原子力」「再生可能エネルギー」「政策決定」「ライフスタイル」をテーマに、有識者、政治家、行政、NPO、NGO、総勢30人以上が登壇し、意見を交わした。

参加者は周りの人と対話を行い、疑問点や今後知りたいことなどをレスポンスシートに記入。



みんなのエネルギー・環境会議 第2回



【日時】 2011年11月18日

【場所】 東京都（東京工業大学）

「リアルな原発のたたみ方」を問題提起に、原発推進派、反対派の有識者が「原発はたたまない」「エネルギーベストミックス論」「倫理と民主主義に委ねる」をテーマに徹底討論。

＜参加者の声＞

「立場の違いが議論の中でみえてきて、興味深かったです。単純に解決できる問題ではないことが実感できました。」

「第1回の会議よりも議論が濃いもので、とても聞き応えがありました。最初の枝廣先生からの「冷静かつ複眼的な思考」が行われていたと思います。」

みんなのエネルギー・環境会議 第3回

【日時】 2012年8月5日

【場所】 東京都（日本科学未来館）

「エネルギーの選択肢と原発をめぐる諸問題を考える」を
テーマに、エネルギーの選択肢、原発をめぐる諸問題

（事故リスク、核廃棄物、再稼働）、さらに国民的議論と政策への反映について考え、
対話する。



<参加者の声>

「イベント自体が中立的な立場から論理的に議論するというスタンスなのがよかったです」

「困難な課題が山積みし、多様な価値観が存在するこれからの社会ではこのようなオープンな対話は必須。」

「原発を巡る二項対立を超えて立場、考え方の違うメンバーによるセッションは非常に意義のある内容だった。これを契機に市民が考え話し合う、そして提示できるエネルギー政策の議論に発展させていくことが大切だと思います。」

みんなのエネルギー・環境会議 地域編

【日時】（京都市）2011年9月、（札幌市）10月、（広島市）2012年1月

第1回のMEECに参加したメンバーが、それぞれ各地で、地域版の開催を企画。地域の実情を踏まえたエネルギー問題、政策、地域の課題等について意見を交わした。

<参加者の声>

「一歩踏み込んで議論できてよかった。いろいろな人の分断をなくす話し合いの場」

「皆さんの活動、考えに共感をし、自分の考えを重ねることができました。貴重な場を創出いただき感謝しています。」

「私と同じ世代の人達がこれだけ考えて実践されているのを聞いたことが何よりも大きな刺激になりました。」

「よくぞ、これだけのメンバーをそろえていただきました。いろいろな人の話を聞いて有意義だった」



みんなのエネルギー・環境会議 若者編

【日時】 2012年2月4日

【場所】 京都市

【主催】 Climate Youth Japan (CYJ)

【協力】 気候ネットワーク、エコ・リーグ(全国青年環境連盟)

【テーマ】 「エネルギー政策について若者はどう見るか」「若者がどう政策に関わるべきか」

MEEC京都に登壇した大学生が、若者主体のMEECを企画。大学生を中心に、今の政策へのかかわり方や問題点、今後の方向性など、議論を行った。



みんなのエネルギー・環境会議 佐賀

【日時】2012年6月9日

【場所】佐賀市（佐賀大学）

【テーマ】「原発とエネルギーと未来と」

初めて原発立地地域で開催されたMEEC。
賛成・反対を問わず、「これから原発をどうするのか」について議論を交わす。第2部ではカフェ形式のグループで対話を行った。



みんなのエネルギー・環境会議 若狭若者編

【日時】 2012年6月10日

【場所】 福井県小浜市（福井県立大学）



イーズが主催した「エネ若のつどい」に参加した若者が自らの地元でMEECを企画。原発立地地域である現状に真摯に向き合い、さまざまな立場の意見を尊重して対話し、これからの若狭および日本の未来を描くことを目的とした。

まず、「2030年の若狭を描く」ワークショップを行い、若者どうして意見交換会を実施。その発表を受けて、MEEC発起人と参加者で、「若者が描く将来像」に現状からどのようなロードマップが描けるか、「若狭の次の一歩」をどう踏み出せばよいか、提言を述べ、議論を交わした。

自然エネルギーに関する総理・有識者 オープン懇談会 (2011年6月12日 動画中継)

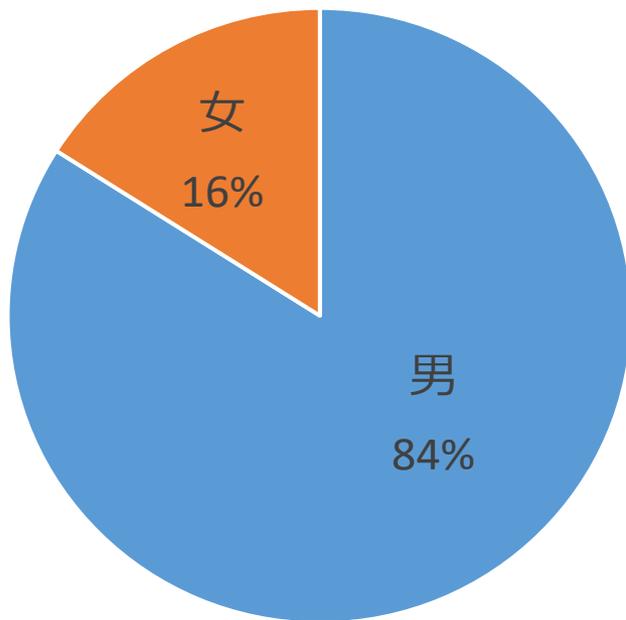


2011年総合資源エネルギー調査会基本問題委員会



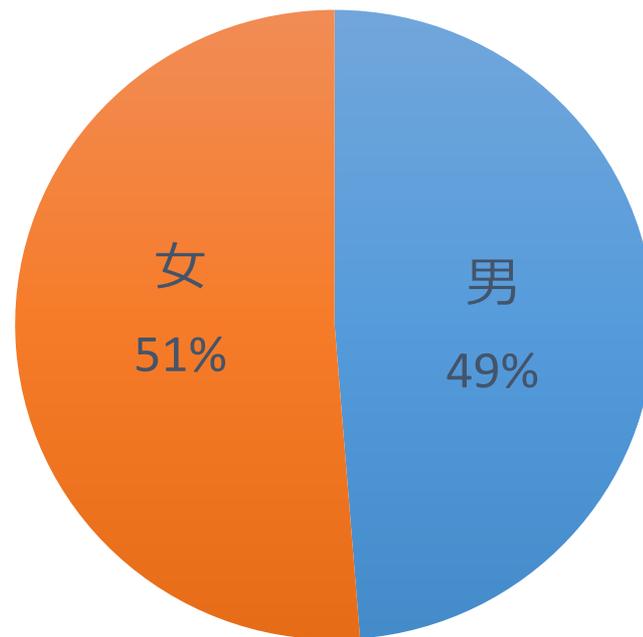
委員は18人

委員の男女比



■ 男 ■ 女

日本の男女比



■ 男 ■ 女

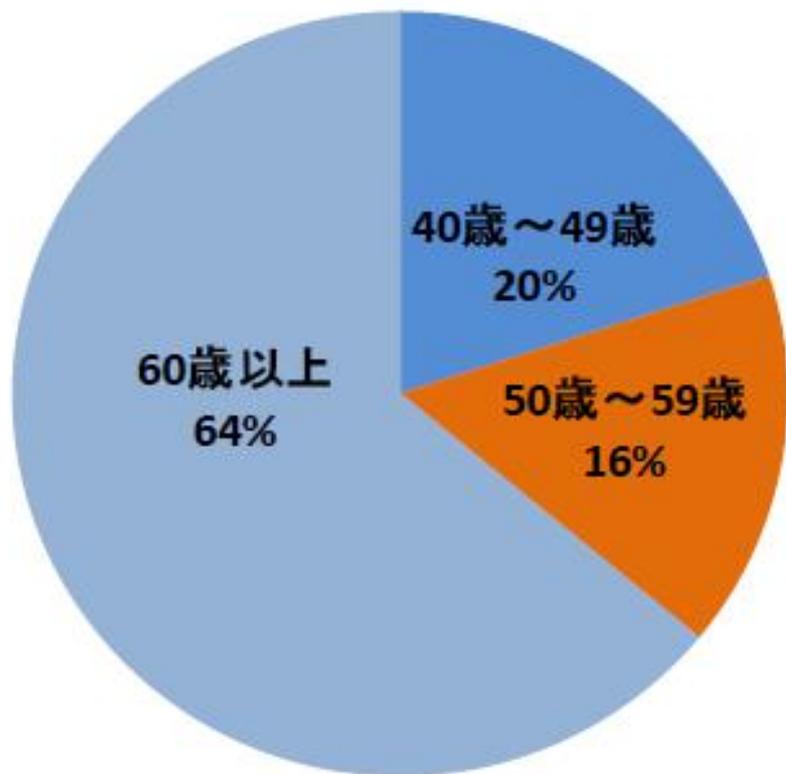
総務省統計局「日本の統計」より

2012-01-31
「女性の視点からエネルギーを考える
エネ女の集い」

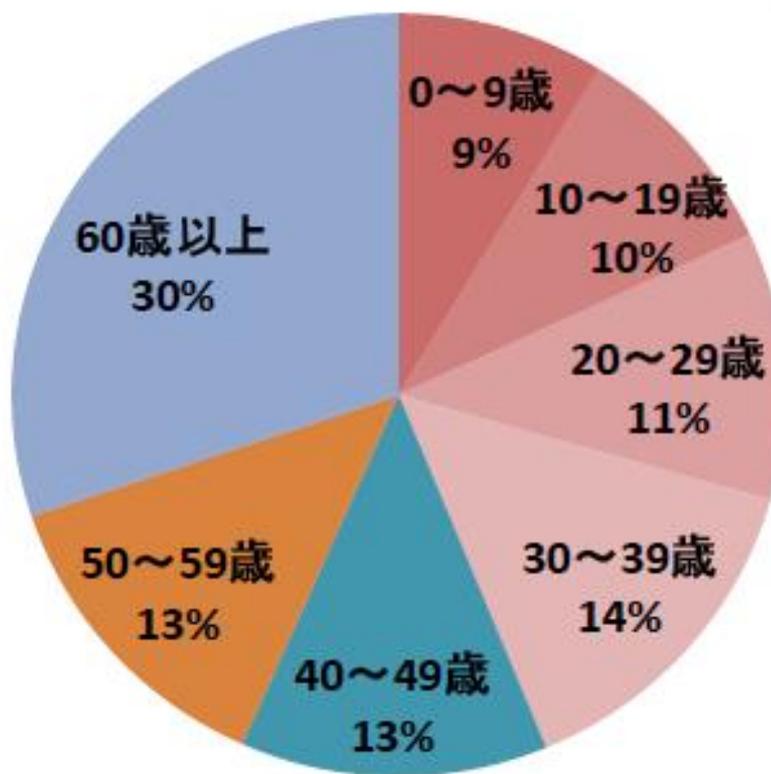


委員は18人

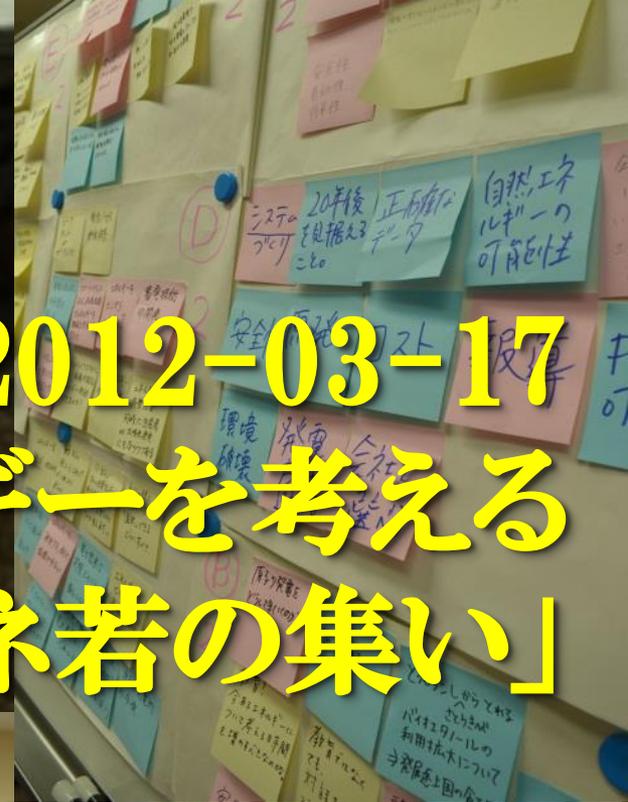
委員の年齢構成



日本の年齢構成



0歳～
39歳の
割合は
40%



2012-03-17 「若者の視点からエネルギーを考える エネ若の集い」



エネルギー情勢懇談会（2017年8月～2018年4月）

2050年をにらんでのエネルギー政策の方向性



第4回エネルギー情勢懇談会
2017年12月8日

情報発信と対話のためのサイト立ち上げました

<https://www.es-inc.jp/energysituation/>

エダヒロの 「エネルギー情勢懇談会」レポ!

検索ワードを入力



「エネルギー情勢懇談会」とは

各回のレポ!

データを読む

論点整理・ご意見募集

関連情報

What's New

第1回エネルギー情勢懇談会

配付資料1「エネルギー情勢を
巡る状況変化」より
エダヒロのピックアップ解説

http://www.enecho.meti.go.jp/committee/studygroup/ene_situation/001/pdf/001_005.pdf

第1回 配布資料より：エダヒロのピックアップ解説（音声付き）

2017年09月25日 【各回のレポ!】



第1回【エダヒロの振り返り】印象に残った発言と考えたこと

2017年09月19日 【各回のレポ!】



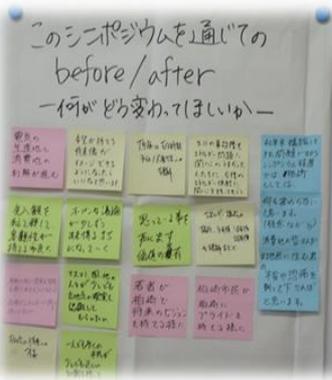
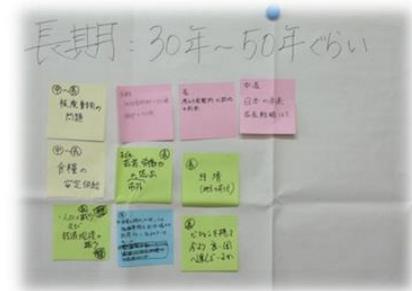
2050年の日本のエネルギーを考える、10の論点が提示されました

2017年09月19日 【論点整理・ご意見募集】

原発集積地・柏崎市
での3年間の取り組み

「明日の柏崎づくり事業」

2012年度 「これからの柏崎とエネルギーを考える」 実行委員会



2012年9月28日 シンポジウム 【セッション1】柏崎のこれまで、そしてこれから



2012年9月29日

【セッション2】柏崎の未来をみんなで語ろう、考えよう～柏崎井戸端会議～



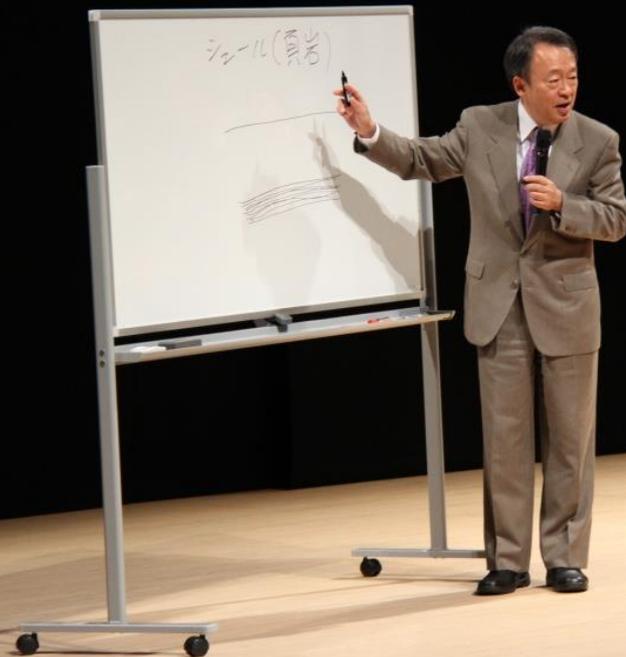
出前講座

2013年10月16日

～新潟産業大学・新潟工科大学～



2013年11月18日 池上彰さんと考える 「これからの柏崎とエネルギー」～エネルギー 情勢の現状とこれから、そして柏崎



池上彰さんに「これが聞きたい！」 ～皆さんからの質問にお答えいただきました～



2014年度 「明日の柏崎づくり事業」実行委員会



原発の賛否は置いて
次の産業を考えよう！



2014年9月29日

生き残りをかけて～柏崎の産業のこれから～

基調講演

「明日の柏崎は輝いているかー第2の陸の孤島論を越えて」

平山 征夫 氏 （新潟国際情報大学学長・前新潟県知事）

明日の柏崎の産業を考えるパネルディスカッション

平山 征夫 氏 （新潟国際情報大学学長・前新潟県知事）

鈴木 正徳 氏 （日揮株式会社取締役執行役員・前中小企業庁長官）

近藤 史朗 氏 （株式会社リコー代表取締役 会長執行役員）

西川 正男 氏 （柏崎商工会議所会頭）

会田 洋 氏 （柏崎市長）

枝廣 淳子 （幸せ経済社会研究所所長）



2014年10月～12月 明日の柏崎の産業を考える勉強会

第1回

地域内でお金をまわす仕組みとは？
～再生可能エネルギーと
市民ファンドについて学ぶ～

日時：10月20日(月)19:00～21:00
会場：柏崎市産業文化会館 第2会議室
講師：おひさま進歩エネルギー株式会社

代表取締役
原 亮弘さま



第2回

一次産業を、かっこよくて・
感動があって・稼げる3K産業に。
～農業の新しい挑戦を学ぶ～

日時：11月4日(火)19:00～21:00
会場：柏崎エネルギーホール 2階会議室
講師：特定非営利活動法人

農家のこせがれネットワーク
代表 宮治勇輔さま



2014年10月～12月 明日の柏崎の産業を考える勉強会

第3回

柏崎の魅力のつくり方 ～全国の魅力ある 地域づくりから学ぶ～

日時：11月21日(金)19:00～21:00
会場：柏崎市産業文化会館 第2会議室
講師：コミュニティーデザイナー
studio-L
代表
山崎 亮さま



第4回

地域の技と力の共創で実現！ ～海洋探査機「江戸っ子1号」 共同開発プロジェクトに学ぶ～

日時：12月3日(水)19:00～21:00
会場：文化会館アルフォーレ マルチホール
講師：株式会社浜野製作所
代表取締役
浜野慶一さま



原子力を巡るコミュニケーション

これまで取り組みからの学び

原子力を巡らなくてもコミュニケーションは難しい！

日本の文化・これまでの状況から

- 議論しない
- ディベートしない
- 意見と本人を一緒にたたにしがち
- 自分の意見を言わない
- 合意形成が可能だと思っていない
- 社会的合意形成のやり方がわからない
- リスク教育が行われていない

原子力を巡るともっと難しくなる！

- 意見 = アイデンティティ
- あまりにも強い既得権益との結びつき
- 国民不在の原発政策への不信感
- 核廃棄物の問題が未解決のままでは進めない
- 国の本気度も感じられない
- 原発業界・企業が信頼を失ってしまっている
- 国際的にも脱原発の潮流
- テクノロジー信奉への疑念

何かあったときだけ
コミュニケーションしようとしても
ダメ！

第7回 エネルギー情勢懇談会

大きな方向性および 報告書とりまとめに向けて

2018年2月27日

東京都市大学
幸せ経済社会研究所

枝廣淳子

「エネルギー政策への国民の参画」、必要性の認識から実行へ！

エネルギー基本計画で謳っていること

●平成22年改定版

- 新たなエネルギー社会を「**国民と共に創る**」という視点に立ち、エネルギー政策に関してよりきめ細かな広聴・広報・情報公開等を進めていく必要がある。
- 国は、**国民各層と**~~国民各層と~~**国で**様々なレベルできめ細かい対話やコミュニケーション等の広聴活動を強化する。
- **国民合意の下に方向付けられたエネルギー政策**の実施を通じ、新たなエネルギー社会を切り拓いていくことが期待される。

エネルギー基本計画で謳っていること

●平成26年版

第5章 国民各層とのコミュニケーションとエネルギーに関する理解の深化

客観性を高め、「国民目線」で個々の事情に対応したより適切な情報提供を行えるよう、第三者による助言を得ながら取組を進めていくために、**民間有識者から構成されるアドバイザリーボード**を更に活用していく。

双方向的なコミュニケーションの充実

エネルギーをめぐる状況の全体像について理解を深めてもらうための最大限の努力を行う一方で、エネルギー政策の立案プロセスの透明性を高め、政策に対する信頼を得ていくため、**国民各層との対話を進めていくためのコミュニケーションを強化していく。**

多様な主体が総合的に議論する枠組みへの実現に向けて、まずは全国の自治体を中心に**地域のエネルギー協議会を作り、多様な主体がエネルギーに関わる様々な課題を議論し、学び合い、理解を深めて政策を前進させていく**ような取組について、今後、検討を行うこととする。

空白の数年間・・・何も変わっていない！

核廃棄物処理のめど
がたっていない

国民不在の
原発・エネルギー政策
づくり

これで「さあやるよ」と言われても・・・

今後の原子力政策のあり方について

1. 福島原発事故からの学び・原則（「依存度をできる限り低減する」）をきちんと定義・確認すべき（運転延長、新增設・リプレースは整合しない）
2. 核廃棄物処理のめどがたたない間は、原発はできるだけ早くゼロにもっていく（未来世代にツケを残さないことこそ原則）
3. 昨今の温暖化・エネルギー情勢から非常時対応が必要というなら、その規模と時間軸、非常時対応の終え方を提示すべき
4. 原発推進・反対を超えた議論を行う場をつくり、維持する（そのための担当部・課を設ける）
5. Z世代など、現在の原発政策の結果を引き受けることになる次世代の意思を重視する